

遺留品について

昨年11月から当会の「Website」にアメリカから遺留品返還についての問い合わせが沢山寄せられています。また、平成16年5月31日のNY Timesの記事を始め、その他の雑誌、新聞等を見て手紙で依頼を寄せられることも多くなってきました。依頼の遺留品は、日章旗だけでなく、写真や日本刀、銃にまで及びます。平成16年7月末で依頼件数41件、その内遺留品の写真や現物を送っていたら、厚生労働省に照会依頼を出しているものが30件あります。また、その中で遺族が判明し、返還しているのが2件、いまだ返還するものが1件あります。

（1）平成15年11月21日アメリカNY州ランカスター在住のシャノンさんより「日章旗（旧持ち主児玉甚一様）を返還したい。今年のクリスマスまでには返せたらと家族一同願っております」との依頼を受けました。シャノンさんのお父様は既に他界されていますが、除いて日章旗を見つけたといいますが、その時「安東日出男君へ」を見つけた、これは捨ててはいけぬものかも知れない。という思いに駆られ、いろいろな方に相談し、日章旗を通して戦争について考え、返還することを決意されたそうです。

（2）平成15年12月7日の西日本新聞で「日章旗を返したい」という記事を見て、西日本新聞社に問い合わせをし、フロリダ在住のカレンさんの連絡先を得て協力の申し入れをしました。写真で日章旗を確認したところ、「安東日出男君へ」を見つけ、厚生労働省に照会依頼をした。カレンさんのお父様も既に他界されていた。しかし生前から「この日章旗を遺族に返したい」と人目にさらすことなく大事に扱われていたそうです。厚生労働省から、ご本人が健在であるとの回答をいただき、平成16年4月20日に返還した。安東氏は日章旗を見てとても懐かしく思われ、しかし、どうしてアメリカ人が持っているのかわからないと話された。また、日章旗について、当時、墨と墨汁を持って、お世話になった先輩や知人に会って日章旗の名前を書いてもいいか、もう会うことはないかも知れないという思いで尋ねて回った。と話してくれました。

（3）今から返還予定の1件は、厚生労働省から「該当者が抽出できない」との返事があり、その後、日章旗に書かれている「内外製鋼所 船堀工場」を手がかりに「Google」で調べたところ、内外製鋼所 船堀工場の写真が目につき、その「Google」を管理している嶋田氏に、日章旗の写真を送りました。嶋田氏は、快く協力を申し出てくれ、お兄さんと嶋田氏も内外製鋼所関連に勤めていたといひ、嶋田氏のお兄さん「嶋田真太郎様」は、細部隊 小原隊で読谷飛行場で整備士だったとのこと。真菜里「真菜平にて戦死したようだ」との通知を受取りました。お兄さんの事を知っている人はいないか、また、遺留品はないか探しているそうです。嶋田氏から嬉しいニュースが届いたのは7月26日でした。奥様が健在で、83歳。本人 菅森正一さんは、戦争から戻られ、1977年に他界されたとのこと。奥様は、「本人が生きていたら懐かしかったらどうに」と言われたそうです。

に伴い、だんだん貴重な情報がなくなりつつある中、せめて名前が判明しているものだけでも、遺族の元へ一日も早く返還したいと思っております。昨年の11月より、アメリカからの依頼を通していろいろな疑問や文化の違いについて考えることが多くなりました。アメリカ兵は、死んでいる日本兵から戦利品として遺留品を持ち帰ったにもかかわらず、「タンクスやガレージに隠し、家族の誰に話さずもなく、じっと心の中にしま込んでおくなられた方」や、「家族に話して遺留品を遺族に返したいと言いがらむくなられた方」、「現在も健在で、遺族に返したいと言われている方」、その家族が今、当会に返還依頼されています。遺族が見つかった場合には返還しますが、見つからなければ、父、叔父の形見としてこれからも持ち続けますと言われている。家族にも話さず、長い間その遺留品と戦争での出来事を心の中にしま込んで独り苦しみでいたこと、知り、家族が形見として持ち続けたいという気持ちになること。また、寄贈したくないと言われる理由が、「保管され、目に付くことなく埃かぶってしまふことがどうぶつでも納得できない。大事にしてきたものを粗末に扱われるのは」ということ。遺族が見つければ、大事に持ち続けてくれるし、遺留品が遺族にとってどんなものなのかも分かってくれている。私達は約60年もの間、遺留品を大事に持ち続けていたに感謝しています。私達は、彼らの「返還したい」という気持ちにこたえたい。また、返還活動を通して、海外にはまだたくさんあるであろう遺留品が日本に帰ってくることを願うばかりです。

平成15年度遺留品返還状況一覧表

Table with columns: 遺留品, 発見場所, 旧所有者, 依頼者, 返還日. Lists 18 items including recognition certificates, military caps, flags, diaries, and photos.

見ても懐かしく思われ、しかし、どうしてアメリカ人が持っているのかわからないと話された。また、日章旗について、当時、墨と墨汁を持って、お世話になった先輩や知人に会って日章旗の名前を書いてもいいか、もう会うことはないかも知れないという思いで尋ねて回った。と話してくれました。

海外からの返還依頼一覧表

平成15年11月～

Large table with columns: 依頼日, 依頼内容, 出身県, 依頼品, 旧所有者, 取得地, 状況/結果. Contains detailed information on 41 international requests for return of war relics.

～情報お待ちしております～
どんな情報でも結構です。お待ちしております。
NPO法人戦没者を慰霊し平和を守る会
TEL 0942-89-5135 FAX 0942-89-9281
担当 田中、古賀まで
〒849-0112
佐賀県三養基郡北茂安町江口7561

アメリカより
日章旗返還福井県へ
（当会が橋渡し）
インターネットを活用した戦没者の遺留品捜しに、多くの情報が寄せられるようになってきました。昨年アメリカニューヨーク州に住むシャノン・モアさんより児玉甚一さんの日章旗の返還申し出があつておりました。今年5月ニューヨークを訪ねてシャノンさんに面談し、持ち主捜しを行なつておりましたが、福井県出身であることが判明致しました。早速福井県庁で記者会見して福井県民の方々に情報の提供を求めておりましたが、福井市内に甥の佐々木孝雄さんと福井県武生市に姪の室田みどりさんがおられる事が分かり、6月27日福井県庁で引渡しとなりました。福井県庁の皆様をはじめ、多くの方々のご協力に感謝いたします。



故児玉甚一氏の日章旗を手に遺族と塩川副理事長